

【まちのデザイン委員会】

委員長 竹内 真子

所 信

昨年主管させていただいた丹波開催の第43回兵庫ブロック会員大会では、「我々は丹波として何をアピールしたいのか?」「丹波の魅力とは何か?」という問い合わせに深夜まで真剣に意見を出し合う機会をいただきました。また例会では青年経済人としてまちを巻き込んだ経営活動のアイデアや丹波市の未来イメージを引き出す勉強会を実施してまいりました。それは発足より先輩方が目指して来られた丹波における「明るい豊かなまちづくり」への思いを着実に引き継ぎ、今私たちが何を誇りにしてここ丹波に暮らして居るのかを考えながら、少しでもまちのお役に立てる自分達になろうと進んでいる証であると考えます。

緑の山々に囲まれ、輝く星や月に照らされ、土や川の水に触れ合う中、折々の四季の移り変わりを肌で感じながら育った中で生まれた、自然を含むすべてのものへの「感謝の気持ち」。生き物と接する中、また共に野山を駆け回る仲間との関係の中で培った「思いやりの気持ち」。それが素直で愛情深い、おだやかでおおらかな丹波人気質を作り上げていることにも(社)丹波青年会議所の仲間との活動のなかで気づかされました。

そして今、丹波市では各地域団体のイベント展開、まちづくりの活動、また地域医療、子育てや青少年育成関連等々でもNPO法人組織や各種団体の活躍など、市民が自らの意志で立ち上がり、活発な行動を起されています。そしてそれは全国に引けをとらない市民発信のまちづくりムーブメントとなっています。「まちづくり」は「ひとつづくり」であるとも言います。わがまちに目を向けられる人、一歩行動を起こせる人をさらに一人でも増やすこと。またその思いを持った人々を丹波市全体に網の目のように結び繋げていくことが必要ではないかと考えます。そしてさらに「キーパーソンとなれる人間が何人存在するか」が、まちの活性のポイントとなると考えます。

40周年を迎える本年度、まちのデザイン委員会では、「丹波らしいまちとは何か」「暮らしやすいまちとはどういうまちなのか」実情をしっかりと捉えた上で考えぬき、青年経済人なりの感性でデザインし、私達なりの言葉で具体的に表現することを目指します。

そして丹波地域全体にネットワークを持つ私達青年会議所メンバーの一人ひとりが、丹波の地においてその繋がりを作り広げるお役を担える存在になれるよう行動いたします。厳しい現実社会の中で個人主義だけを追求し、ある日突然自分自身がここで生きる意味を見失わないように。どんな事があっても人と人があたたかくつながりあい助け合いながら、明るく楽しく暮らせるようなまちであるように。

基本方針

- 一、まちの未来について私達の言葉で表現しデザインします
- 一、メンバー一人ひとりがまちにおいてお役を担える存在になれるよう行動します

事業計画

1. 3月例会
2. 40周年記念事業（7月）
3. 食料問題を考える～食べ残しもったいない運動～
4. 会員拡大の絶対推進
5. 各委員会との連携及び支援
6. 理事長諮問に関する事項